

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻
川崎市立中野島小学校
深田 淳一

1. はじめに

学校課題解決研究を始めるにあたって、所属校にはどのような課題があるのかを改めて振り返った。

児童は、落ち着いた学校生活を送っており、学習にも真面目に取り組んでいる。基礎的な学力は身につけている反面、自分で課題を追及することや、友達と考えを伝え合って理解を深めていくことを苦手としている様子が見られる。教職員は、和気あいあいとした雰囲気と同僚性が高い。年齢構成に偏りが少なく、若手を中心に積極的に物事に取り組む姿勢がある。しかし、日々の校務に追われて、教材研究について意見を交わしたり、授業実践について振り返ったりする時間が無いのが実情である。

このような実態から、授業について話し合う、振り返る時間を設定することで、児童によりよい学びをもたらすことができるのではと考え、研究テーマを『「主体的・対話的で深い学び」による授業改善』とした。

2. 課題解決の方法

研究テーマに迫るために、PDCAサイクルを意識したチームメンタリングの次のような方法で課題解決をめざしていく。

【現状の把握】児童の学習の様子について把握するために、教職員に「学習面での良い点や課題」「身に付けさせたい力」「授業の工夫」という項目のアンケートを実施した。

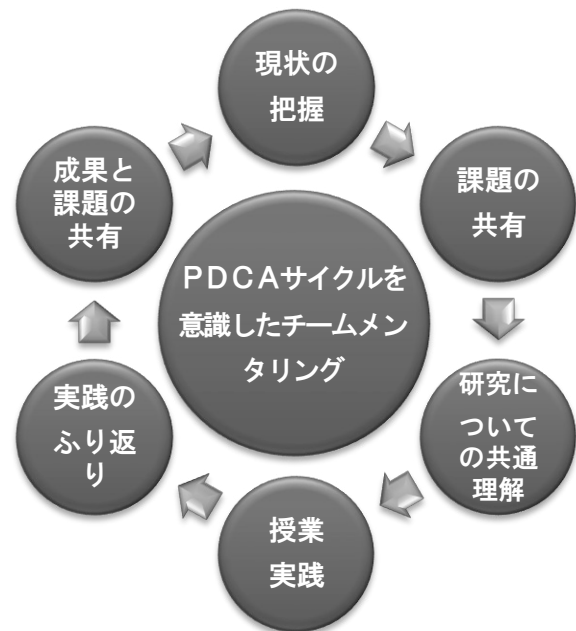
【課題の共有】学年ごとのグループで、KJ法を用いてアンケート結果を共有した。

【研究について共通理解】全体での職員研修を行い、学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものなのかを、グループワークを行いながら共通理解を図る。

【授業実践・振り返り】先生方それぞれが「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって教材研究や授業実践を行ってもらい、学年ごとに実践の成果や課題について振り返る場を設ける。その場にファシリテーターとして参加し、

振り返りのまとめや記録を行う。

【成果と課題の共有】研究を通しての学びを、学年ごとにミニポスターなどにまとめてもらい、それをもとに全体で研究の成果と課題を共有する。課題が残った部分は次年度も解決策を検討していく。



3. おわりに

研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものなのかが漠然としていて、不安を抱えている先生もいると思われる。まったく新しいものではなく、これまでの授業実践の中で行われており、この研究が高いハードルを越えようとするものではないことを先生方に伝え、共に学んでいく姿勢で研究を進めていきたい。現在、「課題の共有」までを終え、どの学年でも学習面の課題として「主体的に学習に取り組む姿勢」「友達との学び合い」などが挙がり、大きな違いは見られなかった。今後は職員研修を通して、研究についての共通理解を図り、教職員全体で同じビジョンをもって授業実践を行えるようにしていきたい。